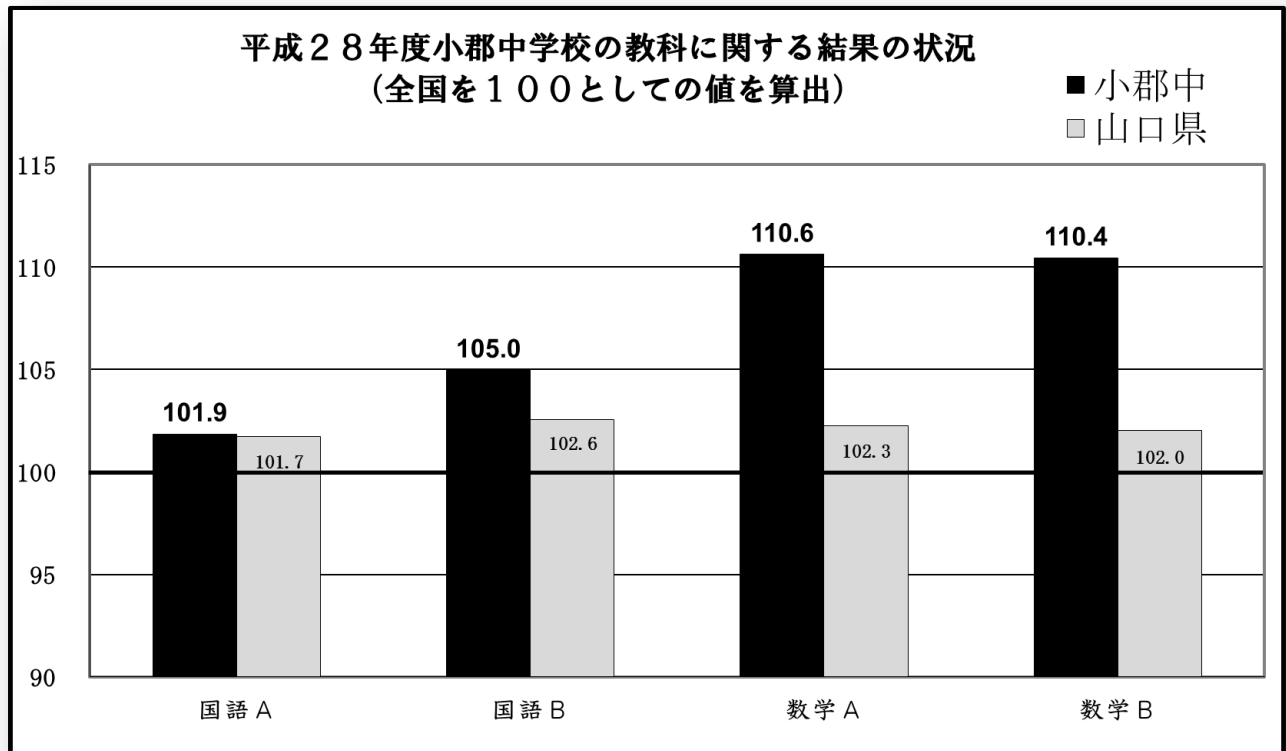




## 学力面でも一流を証明！

—平成28年度全国学力・学習状況調査—



4月に全国一斉に実施されました、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果が、9月に文部科学省より本校に開示されました。上図は、全国(公立)平均正答率と、本校生徒の正答率、山口県の正答率を比較したものの(全国を100としています)です。これまでも本校は毎年全国平均を上回る好結果を残してきましたが、今年

は例年を上回る好成績を達成することができました。一流の学校になることをめざして頑張る本校生徒が、学力面でも確実に成長を遂げていることを確認することができる嬉しい結果になりました。これも、日頃から地域の皆様やご家庭から並々ならぬご尽力をいただいているおかげであり、職員一同心よりお礼申し上げます。

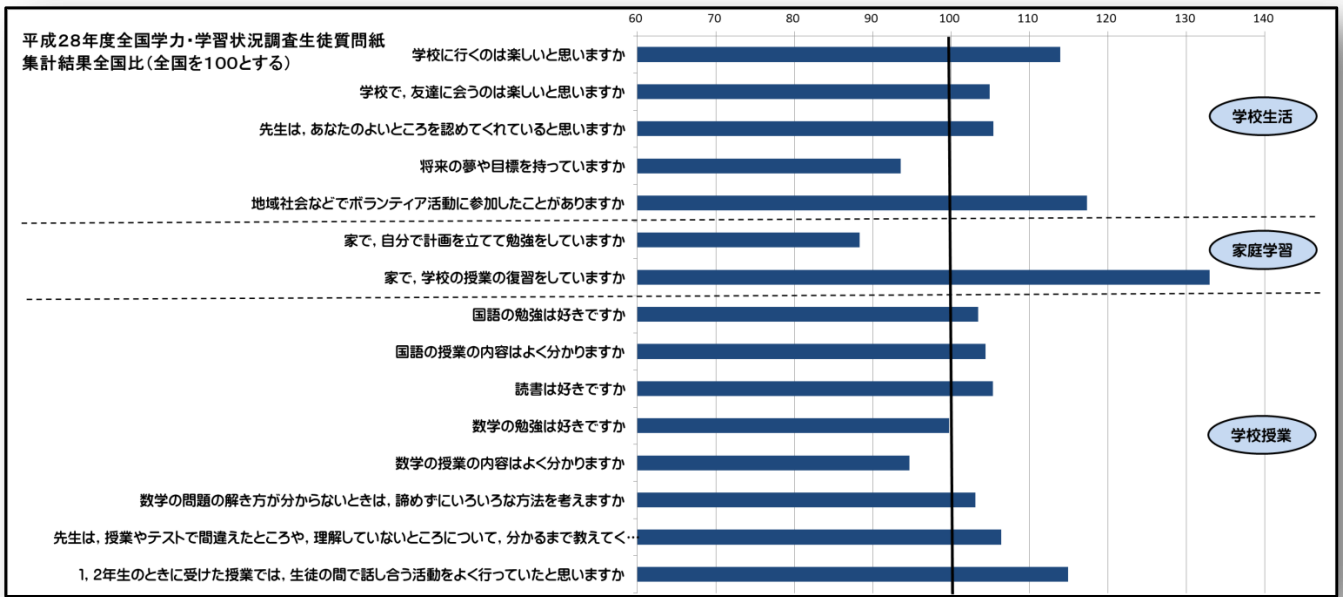
### ●全国学力・学習状況調査とは(文部科学省)

**目的**…義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒(全国の中学校3学年生徒 1,066,011人)の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。

**実施教科**…国語 A・国語 B・数学 A・数学 B。実施教科が2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、生徒が身につけるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことを留意することが必要である。Aは主として『知識』に関する問題。Bは主として『活用』に関する問題。

# 質問紙調査

—生徒が回答した74項目のうち特に顕著な項目の抜粋—



全国学力・学習状況調査では教科調査とともに質問紙調査も実施されます。上図は本校独自にデータ処理をして全国との比較をグラフに表したものです。学校生活においては非常に良好な状況であることが、本調査においてもあきらかになりました。ただし「将来の夢や目標」の設定については課題が残りました。家庭学習では復習の習慣化が着実に向上してきていますが、計画的な

学習習慣化では課題が残りました。学校での授業においては、生徒とともに取り組んできている授業改善が着実に進んでいる様子が見取れますが、授業が分かりにくいと感じている生徒が相当数いることもあきらかになり、引き続き課題が残りました。学校としては、学力定着に向けた検証・改善を今後も確実に進めてまいります。

## 【絞り込まれた本校生徒の課題】

☆ **文章表現に課題** (条件付きの作文・論理的な作文・教科の用語をしようとしないう・誤った使い方をしている・音と文字が一致していない (英単語))

☆ **問題 (長文) を読み取ることに課題** (長い文章を読んだ後の質問、「すべて」答えなさいという問い・問題解決のための資料を選び出せない) など

☆ **知識の活用に課題** (経験したことがない実験に対して既存の知識で考察することができない・公式や式変形等をどのように使うかわかっていない)

## 【全校で重点的に取り組む課題対応策】

☆「教えて考えさせる授業」 ☆帯活動による復習

☆**発問の工夫**・単語や数値、Yes / Noだけを問わない発問

☆**発表の仕方の指導**・「~だから」「~のため」など、質問に応じた表現の定着

☆**知識を活用する場面、自分の考えをまとめる場面の設定**

☆**資料の使い方の指導**

☆**考察の視点の指導**・授業での問題提示、定期テストでの出題

☆**朝読書の継続**・活字離れを増やさない

☆**家庭学習ノートの継続と活用法の工夫**

☆**朝学の継続、読み取りマスターの実施**

☆**質問教室の継続**・学習の機会の確保